



この一冊

Vol. 105

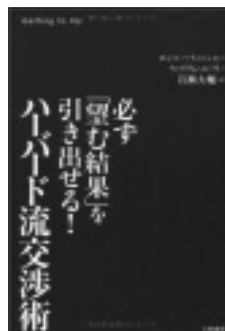


当会会員 ● 三森 仁 (45期) ● Satoru Mitsumori

これまでの人生において大きな影響を受けた書籍は数多い。中でも、吉野源三郎著『君たちはどう生きるか』（岩波文庫）や宇野千代著『天風先生座談』（廣済堂文庫）は、今でもたまに読み返すし、子どもにも読ませたい良書である。しかし、今回は、二弁フロンティアで一冊を紹介するという機会であることから、弁護士業務において大きく役に立ったと考える書籍を紹介したい。

フィッシャー&ユーリー著『ハーバード流交渉術』（三笠書房）は、ハーバード大学の交渉学を研究する機関において開発・構築された交渉術の決定版を紹介する本である。エッセンスは、交渉において、利害対立の視点ではなく、お互いの共通の目的を探り、その目的の達成のために双方が何をできるのかを考えるスタンスが重要であるというものである。一言で説明してしまうと、そんなものかと思われるかもしれないが、同じことを伝えるにも言い方次第で結果が大きく変わるように、交渉のスタンスは極めて重要である。もちろん、交渉が決裂した場合の最悪の事態において何ができるのかということも考えて交渉に臨む必

『ハーバード流 交渉術 必ず「望む結果」を 引き出せる！』



ロジャー・フィッシャー、
ウィリアム・ユーリー 著
岩瀬 大輔 訳
三笠書房
1,404円(税込)

要もあるが、これまでの多くの交渉において、この『ハーバード流交渉術』は問題の解決に大いに役立ったものと感じている。

『ハーバード流交渉術』との出会いは偶然であった。私は平成5年4月に登録をして弁護士としての職業人生を始めたばかりであったが、その直後、大喧嘩して妻が3週間も実家に帰ってしまうという最悪の状態に陥っていた。いまだに事務所の先輩から、三森は入所早々虚脱状態で仕事どころではなかったと冷やかされる始末である。そんな折、

妻に帰って来てもらうためには何をしたらよいか、考えあぐね、行き詰まっている時に、本屋で偶然目に留まったのが本書である。藁にもすがらる思いで買って帰り、早速その日のうちに本書に目を通した。なるほど、と思わせるノウハウばかりである。私は妻との交渉がうまくいくものと確信した。

…実を言うと、『ハーバード流交渉術』では妻との交渉はうまくいかなかった。帰って来てもらうためには、結局、ただひたすら謝るほかなかった。如何に上手に交渉しても、超えられない相手との力の差というものは否定できない…。

『ハーバード流交渉術』も万能ではないということではあるが、我々が主戦場とするビジネスの世界においては、『ハーバード流交渉術』は大いに役に立つと思う。お薦めの一冊である。 ■